

アカデミックライティングセンターにおける支援内容の分析 —支援履歴の質的データをもとに—

中竹真依子・小林至道（青山学院大学アカデミックライティングセンター）
土屋章子・大楽修平・岩館あけみ・石田生・Yang Zhiye・唐蕊（青山学院大学大学院）

■プログラム掲載用の要約

青山学院大学のアカデミックライティングセンター（AWC）では、チューターがチュートリアル終了後に Google フォームに「支援履歴」を残すことになっている。本発表では、支援履歴の質的データの分析を通じて、学生はどのような悩みや問題を抱えてセンターを利用するのか、チューターは学生が持参した文章における問題点をどのように検討し、どのような支援を行っているのかを明らかにする。また、分析結果をもとに、AWCにおけるライティング支援の今後の展望について考察する。

■発表要旨

青山学院大学では、2017年11月よりアカデミックライティングセンター（AWC）を開設し、学生のアカデミック・ライティング支援にあたっている。AWCでは、チューターがチュートリアル終了後に Google フォームに「支援履歴」を残すことになっている。本研究では、支援履歴に記録された支援内容に関する自由記述に焦点を当て、チューターは学生が書いた文章のどのような点に着目し、どのような支援を行っているのか、といった支援内容の詳細について質的な分析を試みた。AWCにおける支援内容として多かったのは、文章の構成、課題内容の確認、文章の展開などであった。このほかにも、引用の仕方や参考文献一覧の書き方、課題提出までのスケジューリングなど、多岐にわたるライティング支援を行っていることが明らかとなった。また、チュートリアルで取り扱う文章の問題点や問題点への対処の仕方はそれぞれ異なるが、レポート・論文の基本的な知識を伝えながら学生本人の考えを引き出すさまざまな工夫がなされていることがわかった。本発表では、AWCでの支援の様子を象徴的に示しているような記述をいくつかピックアップし、そこから浮かび上がってくる支援の特徴を報告する。さらに、支援内容に加えて、学生がどのような悩みや問題を抱えてセンターを利用するのかといった学生のライティングの現状やニーズに関する記述も多くみられ、レポートとは何か、レポートをどのように書けばよいかなど、レポートそのものやレポートの基本的な書き方に不安を抱えている学生が多いことも明らかとなった。このように、支援履歴は、単なる支援内容の記録やチューター間の引継ぎのための参考資料にとどまらず、ライティング支援に対する学生のニーズを把握する上での貴重な資料である。本発表では、支援履歴の分析結果をもとに、AWCにおけるライティング支援の今後の展望についても考察する。